

京都大学高等教育教授システム開発センター主催
「第 13 回大学教育研究フォーラム」平成 19 年 3 月

偏差値より判断力（企業の求める人材）

岩崎 滋

(株)ヒューマンマヤ

1. はじめに

1920 年代から大学入試で暗記より判断力を問う問題が望ましいとされて来たが、「大学卒業者の判断力が向上している様子はなく、企業内で再教育している。」と企業人事担当者は言う。

現在、教育界の 1 部では学力向上が叫ばれているが、学力がペーパーテストで測定される限り、学力＝偏差値 とならざるを得ない。

偏差値偏重策が学童に及ぼす悪影響は既に論議を重ねられている。敢えて、ゆとり教育を捨てて学力主義に回帰するのは、天才期待の必要性を感じてのことと思われる。極く 1 部の人たちは、

「日本のビルゲイツよ！出よ」「もうひとりの手塚治虫、宮崎 駿を」と奇才を望むが、必修課目未履修にし卒業資格を喪失させつつ大学進学を目指すような過度の効率主義には歯止めをかけたい。

デバグ不足の無資格ソフトを「将来は想定外、今の環境なら動くから納品する」では困る。

現実の産業界を支える IT 企業の大半は、高い偏差値の首席卒業生を持てあまし、平均的大多数のチームワークで製品を供給しているし、発明協会では「一人のノーベル賞受賞者よりも百万人の発明家」をスローガンにしている。良好なチームワークは、平凡な判断力を持つメンバーを多数擁して成立する。しかし、判断力を養う為に、全人格的な徳育を現在要求するのは現実的でない。

カリキュラム変更を伴わない範囲で決断力の適正化を目指し、判断力の涵養をはかる必要がある。

その方法として、**多肢選択型ペーパーテスト採点法の変更**が考えられる。

現行の加点方式採点に 1 つの問題点があることを指摘したい。選択式のペーパーテストで誤解答と無回答とを同一視して採点することが常識となっており正答のみを加点して合計点とする。

この結果、塾などでは「正解が判らないとき、鉛筆を転がしてでも解答欄を埋めるのが得である」と教える。10 年余りこの教育を受ければ大学生が思考停止し適正な決断力を失うのは当然であろう。

本来、学校のテストでも信賞必罰があって、誤回答は少ないほど望ましいと教えて欲しい。

信賞必罰は団体生活と共に企業が社会人教育として教える重要点であり、新入社員がカルチャーショックを受ける所以である。顧客にも環境にも誠実に行動する決断力が求められる。

ペーパーテスト改善の最良策は入力を変更した確信度入力^{1) 2)}の採用である。

解答欄に複数回答できるようになり、解答欄を埋め尽くすというプレッシャーから解放される。

確信度入力は、理解程度を自他ともに明示することになり、誠実な解答態度が維持されるが、採点方法の複雑化は否めず、簡単には採用できない場合が多い。

現行の唯一解答方式で誤解答減点採点法は簡単でありながら、決断力の測定ができる。

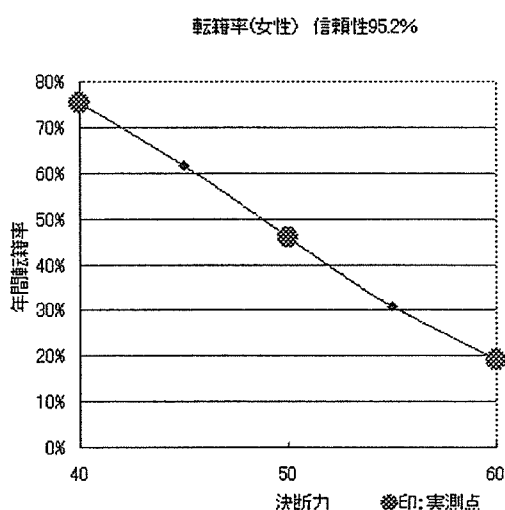
解答するか無回答にするかという決断力が測定できる。この測定値を偏差値よりも重用する IT 企業が複数あらわれ、新入社員 1 年間の個人業績評価と決断力との相関を調べた。

2. 出題と採点方法

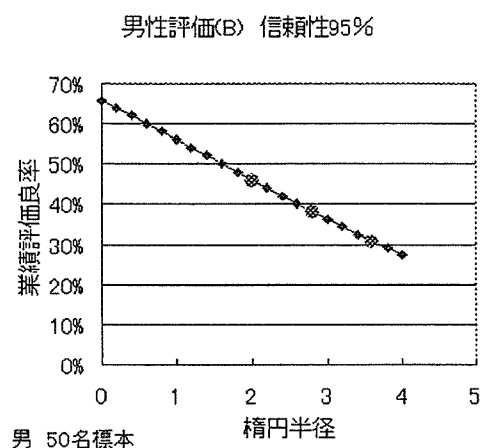
- ① 出題は、6部構成のSE用適性検査「新海嶺」³⁾である。
- ② 採点は6部がそれぞれ正答・誤回答で加重集計され、得点+減点を偏差値に、得点-減点を決断力(解答数に比例的)に変換する。高ければ、無鉄砲な、低いのは慎重な解答である。
- ③ 誤解答のペナルティの重みが正答の重みより重い。
- ④ 採点結果の表示には偏差値と決断力と2次元表示が望まれるので、平面上にプロットし、人物評を導くことができる。

3. 企業による評価

偏差値と決断力の合成関数は楕円半径を意味し、男性社員の業績評価との相関が高い企業が多い。決断力には偏差値の2倍の重みを掛けて、相関係数が大きくなった。(2倍重みは最適係数ではないが、満足できる係数であり、判りやすい。)
女子社員は決断力が低く慎重なほど業績評価が高い。



第1図 B社 女性社員個人評価



第2図 B社 男性社員個人評価

4. まとめ

適性検査「新海嶺」成績とその2年後の個人業績評価との相関を複数のIT企業で調べ、偏差値より決断力の数値のほうが大きい影響力を個人業績に持つことが判明した。

教育機関において、簡単な改良を多肢選択型テストの採点法に施すことにより、適正な決断力涵養の可能性を示した。

以上

参考文献

- 1) 新藤茂: 多岐選択テストへのスコアリングルール法の適用の為の理論的検討と試行, 日本教育工学会雑誌, 16, 2, PP63-78(1992)
- 2) 岩崎滋: 零次確信度付き知能検査の開発, 日本教育工学会第9回大会, JET, Oct. 10-11(1993)
- 2) 岩崎滋: 知的誠実さを育成するテスト採点方法, 日本教育工学会第12回全国大会 12p2D2, Nov. 3-4(1996)